

世界の人権はいま

— 普遍的定期審査の現場から — (その二)



研究センター所長
同志社大学法学部教授

坂元 茂樹

まずは、日本のお隣の国である韓国の普遍的定期審査 (Universal Periodic Review: UPR) を取り上げてみたいと思います。

韓国の第一回のUPRは、二〇〇八年二月二十八日に行われました。審査の作業部会にあたる「トロイカ」は、ペルー、エジプトおよびヨルダンの三カ国によって構成されました。第一回の審査では三三か国が発言しました。こうした審査の内容をご紹介する前に、まずは韓国の人権状況について概観してみましよう。

韓国は、四〇年に及ぶ軍事独裁政権を経て、民主主義体制に移行した国です。日本が一九七九年に国際人権規約を批准したのに対し、韓国が同規約を批准するのは一九九〇年です。しかし、日本と異なり、韓国は同時に

個人通報制度を定めた自由権規約第一選択議定書を批准しました。また、女性差別撤廃条約選択議定書の締約国にもなっています。日本はいまだこうした個人通報制度を受け入れてはいません。その意味では、日本よりも人権条約の批准に熱心な国ということができません。さらに、二〇〇一年に国家人権委員会を設置しています。

他方で、三八度線をはさんで北朝鮮と対峙している韓国は、安全保障に絡むさまざまな制約が国民に課せられています。たとえば、最長四八時間にわたって逮捕令状なしに拘禁を認める緊急逮捕手続や、国家保安法上の事案の場合には五〇日間という長期に及ぶ未決拘禁が可能な制度が採用されています。国家保安法第七条一項は、「国の存立、安全又は自由民主的基本秩序を危うくすることを知りながら、反国家団体若しくはその構成員又はその指令を受けた者の活動を称揚し、宣伝し若しくはこれに同調し、又は国家変乱を宣伝し、扇動した者は、七年以下の懲役に処する」と規定しています。

韓国政府は、国家保安法は国の安全保障および緊急事態に備える観点から必要との立場をとっており、同法は憲法裁判所や最高裁判所が示した解釈基準に従い、厳密に解釈・適用されており、濫用の余地はないとしています。しかし、拘禁施設における拷問や非人道的行為などの報告もあり、実態は政府が述べることと異なっている

可能性があります。

また、憲法第一一〇条四項は、「非常戒厳下の軍人及び軍務員の犯罪：のうち法律が定めた場合〔坂元注・軍法会議法第五三四条〕に限り、単審で行うことができる。ただし、死刑を宣言する場合には、この限りではない」と規定し、死刑の場合を除き、軍事上の裁判については上訴することができないと定めています。韓国が締約国となっている自由権規約第一四条五項は、「有罪の判決を受けたすべての者は、法律に基づきその判決及び刑罰を上級の裁判所によって再審理される権利を有する」と規定し、上訴の権利を認めていますので、韓国は自由権規約にあたってこの条項の適用を制限する留保を行っています。

さらに韓国は、日本とは異なり、徴兵制度を採用しています。朝鮮半島の分断状況という特別の安全保障環境もあるのですが、兵役拒否者に対しては最長三年の懲役刑が科せられます（二〇〇三年徴兵法）。宗教上の教義などを理由とする良心的兵役拒否は認めておらず、拒否者は前科者の汚名を着せられ、公務員や準公務員の就任権も認められません。同様に、こうした兵役拒否者に対する代替的役務の導入も、国民のコンセンサスの欠如を理由に採用されていません。こうした対応をとる韓国政府に対しては、同国が締約国となっている自由権規約の政府報告書審査の場でも、重大な懸念が自由権規約

委員会によって表明されています。

韓国憲法第三三条二項は、「公務員たる勤労者は、法律が定める者に限り、団結権、団体交渉権及び団体行動権を有する」と規定しており、これを受けて、上級公務員や国公立および私大の教員に対して労働基本権の享有が制限されています。同条三項は、「法律が定める主要防衛産業体に従事する勤労者」についても、団体行動権を制限し、認めないことを規定しています。労働者の権利の問題でいえば、韓国では、日本と同様に、中小企業における非正規雇用の女性労働者が多く存在します。朴槿恵（パククネ）大統領という女性大統領を擁していますが、政治や司法の現場での女性の割合は低いとされます。

また、めざましい経済発展を遂げた韓国は、日本と同様に少子化および高齢化社会を迎えており、労働力の不足を補うために外国人労働者を多く受け入れていきます。二〇一〇年には六九万人に過ぎなかった外国人労働者の数は、二〇一四年末には百万人を超える数になっています。韓国ではこうした移住労働者に対する差別と人権侵害の問題が数多く発生しており、移住労働者の保護の問題が重要な課題になっています。

こうした人権状況にある韓国のUPRでは、どのような人権問題が各国によって取り上げられたのでしょうか、今回は、この点についてご説明したいと思います。